

◆ 続 たなばた後日譚 ◆

本校に赴任し、このメッセージを始めてもうすぐ1年になる。その間、うれしい出来事もいくつかあった。『たなばた』の話を書いたら懐かしい声に出会えた。その際に触れた『リンゴの谷』という曲にもいろいろな思い出がある（長くなるので略します）。随分と間が空いてしまったが、このメッセージで「続たなばた後日譚」が書けそうだ。」と記したのが、今年の8月20日のこと。そして今も吹奏楽部が『シンフォニア・ノビリッシマ』を練習している。

「その高校の吹奏楽部は、私が在籍していた頃も（幸いなことに）顧問として携わっていた頃も、定期演奏会で顧問が指揮することはなく、生徒が主体的に（？）活動していたものだった。」と7月7日付けのメッセージ（『たなばた』）に書いたが、生徒（私）が主体的に（？）指揮した、まさにその曲が『シンフォニア・ノビリッシマ』。中間部のオーボエのソロと続くホルンのヒロイックなオブリガートがとても印象的。高校2年の夏、我々はその曲でコンクールに臨んだ。もう40数年も前のことである。

本校吹奏楽部の定期演奏会が3月28日、2年振りに開催される。過日卒業した3年生は、昨年実施予定であったこの定期演奏会を中止せざるを得なかったため、本当に残念な思いをしたと思うけれど、次の演奏会に（全員とはいかないが）出てくれることになった。このような状況でなければ、全学年の部員が同じステージに載ることはあり得なかったわけで、これもまたうれしい偶然といえるかもしれない。



さて、この定期演奏会。いろいろな巡り合わせから、冒頭の曲がこの『シンフォニア・ノビリッシマ』になったとの報告を受けたのが、秋頃だっただろうか。そして、この曲を私に指揮して欲しい、という話になってしまった。

せっかくのお話なので、お引き受けすることにした。それにしても、40数年ぶりにまた同じ曲に向かい合うことになろうとは…。

あの夏のコンクールでは、制限時間が気になり歌い込むべき所も十分に生かせなかった記憶がある。オーボエがいなくて、代わりにとても上手なフルートにそのメロディを吹いてもらったことを昨日のことにように思い出す。今度はゆっくりやろう、そう思ってスコアに向かい合っている日々である。さて、どのような演奏になることやら…。

ようやく「続 たなばた後日譚」に辿り着いた。こういう機会を作っていただいた生徒の皆さんと顧問のS先生に感謝である。乞うご期待！